

# 名古屋 文化情報

2020  
1・2  
January / February

No. 390  
NAGOYA  
Cultural  
Information

随想／柴野 理奈子(児童書作家) 視点／書店員と作家との熱い関係  
この人と…ズームアップ／五條 園八王(日本舞踊五條流 師範)  
いとしのサブカル／堀江 浩彰(ホリエビル オーナー)



2020

1・2

January / February

Contents

名古屋市市民文芸祭 小・中学生の部 受賞作品…………… 2

随想 たとえすぐに結果が目に見えなくても  
柴野 理奈子(児童書作家) …………… 3

視点  
書店員と作家との熱い関係…………… 4

この人と…ズームアップ  
五條 園八王(日本舞踊五條流 師範)…………… 6

ピックアップ 今、若手音楽家が熱い!…………… 8

いとしのサブカル  
堀江 浩彰(ホリエビル オーナ)…………… 9

おしらせ…………… 10

「なごや文化情報」編集委員

- 上野 茂 (ナゴヤ劇場ジャーナル編集長)
- 杵屋六春 (長唄・唄方 名古屋音楽大学講師)
- 濱津清仁 (指揮者)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぽおと代表)
- 吉田明子 (人形劇団むすび座制作部長)

表紙

作品

The workings of the universe 2013.  
(宇宙の営み)

(2013年/陶土、金箔、岩絵の具、アルシヨ紙/  
H300cm×W150cm 床 200cm×150cm)

私がこの宇宙に存在する意味に思いを巡らす時、宇宙の営みに  
迎り着く。

私の作品は、自己の遺伝子に刻み込まれた宇宙の営みの記憶  
と、自己の心の奥に眠る日本文化の基礎理念である幽玄美の追  
求を作品にしています。



泉 秀憲 (いずみ ひでのり)

略歴

- 1958年 愛知県大府市生まれ
- 1983年 名古屋芸術大学絵画科卒業
- 1993年 ACT大賞93奨励賞受賞
- 1997年 日仏会館ポスター原画コンクール展 佳作受賞
- 2004年 平成15年度 名古屋市芸術奨励賞受賞

「先端」

◆名古屋市会議長賞◆

「2018年 名古屋市市民文芸祭」  
(第六九回名古屋短詩型文学祭)小・中学生の部  
詩の部 受賞作品より ※受賞時の学校・学年で掲載しています。

名古屋市立秋山中学校2年

河野 莉子

爪の先をじっと見る。  
小さくて丸い形の私の爪。  
私の先端。

私の爪はよく伸びる。  
爪がよく伸びるのは  
苦しい時だつて

誰かに聞いたことがある。

本当かな？  
本当みたい。

そろそろ今夜は爪を切ろう。  
涙の理由を断ち切るように。

髪の毛をじっと見る。  
硬くて真っ直ぐな私の髪。  
私の先端。

私の髪はよく伸びる。  
髪がよく伸びるのは  
楽しい時だつて  
誰かに聞いたことがある。

本当かな？  
本当みたい。

まだまだ長く髪を伸ばそう。  
花の飾りが似合うように。

## 随想

## たとえすぐに結果が目に見えなくても


しばのりなこ  
**柴野 理奈子**(児童書作家)

上智大学文学部卒業。著書に『放課後、きみがピアノをひいていたから』(集英社みらい文庫)、『思い出とひきかえに、君を』(集英社オレンジ文庫)、翻訳書に『ひみつのマーメイド』(KADOKAWA)など。名古屋市文化振興事業団第35回芸術創造賞受賞。

私は長年、地元小学校の読み聞かせボランティア団体に所属し、活動している。そこでのルールの一つに「読み終えたあと、子どもたちに感想を求めない」というものがあり、私はそれが気に入っている。あとで感想を言わなきゃと思うと子どもたちは身構えてしまい、なにを言うべきか考えながら聞かざる。そうではなく、ただ純粋に絵本を楽しんでほしい——。そんな願いが、このルールにこめられている。

どの学年にどの絵本を読むか、私たちは毎回議論を重ね、時間をかけて選書している。苦心の末に選んだ一冊なのだから、楽しんでもらえたかどうかは非常に気になるところだ。だが、絵本を読んでいるときの子どもたちの真剣なまなざしが答えだと信じて、感想を聞くのはこらえている。

とかくすぐに結果を求める時代だ。失敗をおそれ、最短で成果をあげることが是とされる今だからこそ、結果を求めず、絵本を楽しむためだけにあるこの時間を、私は大切にしている。

以前、とあることで思わしい結果が出なくて落ちこんでいた時、姉がかけてくれた言葉がある。

「目に見えるものだけが結果じゃないよ」

あの一言で、私はどれだけ救われたか知れない。余談であるが、あの時の私の救われた気持ちを

分かちあいたくて書いたのが『放課後、きみがピアノをひいていたから〜好き〜』という本である。

私は「児童文庫」とよばれる分野で子ども向けの読み物を書いている。子どもが子どもでいられる時間は短い。そのかけがえのない時間を割いてまで読んでもらうのだから、それに値するものを届けたい。「おもしろかった」「読んでよかった」そう感じてもらえる一瞬のために、編集者の方や携わるすべての方々を一つにして、原稿のすみずみまで気を配り、一人でも多くの読者の心に届きますようにと祈りながら作品を送りだしている。制約も多く、苦しいことも多々あるが、私は誇りと喜びをもってこの分野で書いている。

読み聞かせの絵本にしろ、拙著にしろ、読んだところで目に見える成果は得られないかもしれない。すぐさま成績が上がるわけでもなければ、身長が伸びるわけでもない。でも、読みおえたあとにわきあがる気持ちが、たとえば広い校庭でキラリと光る一粒の水晶を見つけた時に得られる小さな喜びのように、ささやかな光となって子どもたちの中に根づくといいな、と願っている。それがやがて彼らの心の土壌の一部となり、いつか花を咲かせてくれたら、それほどうれしいことはない。

## 書店員と作家との熱い関係

2019年7月、第161回直木賞が発表されたとき、名古屋の書店は沸いた。新聞やテレビも大きく取り上げた。受賞作家が名古屋市在住だったというだけでなく、地元の書店と強いつながりがあったことが話題となった。作家を応援しようという書店員の動きとその想いを受けて創作を続ける作家の横顔を追った。  
(まとめ:山本直子)

### 第161回直木賞発表

2019年7月17日、第161回直木賞が発表された。「受賞作は『渦 妹背山婦女庭訓 魂結び』、大島真寿美さんの作品です」。

大島さんを応援する書店員や常連客が集まり、インターネット中継を見守っていた名古屋市瑞穂区の七五書店では、この瞬間、大きな歓声があがった。

大島真寿美さんは名古屋市在住。1992年『春の手品師』で第74回文学界新人賞受賞。同年すばる文学賞最終候補となった『宙の家』が刊行される。その後、2012年『ピエタ』で第9回本屋大賞第3位。2014年には『あなたの本当の人生は』で第152回直木賞候補になっている。そして、このたび見事に第161回直木賞を射とめた。

8月23日の贈呈式で、大島さんはこう語っている。

「小説を書いている間の、喜びも苦しみも、まあだいたい、わかったつもりになっていました。楽しいこともあれば辛いこともある。そんなの当たり前。それでも一行一行書き続けるだけ、そう思って、二十数年、やってきました。

ところがところが、この、『渦 妹背山婦女庭訓 魂結び』を書いている間、なんといったらいいか、そういう、自分の知っているレベルをはるかに突き抜けた喜び、楽しさが味わえたのです。むしろ、苦しいときもあるにはありましたが、ともかく、ありえないくらいに書くことが楽しかった」



第161回直木賞贈呈式

左からKADOKAWA営業部の逸見さん、大盛堂の山本さん

紀伊國屋書店名古屋空港店の山崎さん、大島さん

精文館書店中島新町店の久田さん、八重洲ブックセンターの内田さん

### 大島さんを応援する七五書店

新瑞橋の交差点から東へ徒歩10分ほどのところに、カフ

ェ「まほろば珈琲館」を併設した本屋がある。それが、本好きのあいだで話題の七五書店だ。

通常、書店の店頭にある本は委託品だ。書店は取次（本の問屋）から送られてきた本を店頭並べ、一定期間経過して売れ残っているものは取次に返品する。取次はそれを出版社に返品する。そこで、出版社は常に返品に悩まされることになる。最近では、取次から送られてくる本を並べるのではなく、書店員自らが注文を出して本を集め、棚づくりをしている書店が目されるようになってきた。七五書店もその一つで全国から訪れる人がある。

店長の熊谷隆章さんは、1998年にアルバイトとして七五書店で働き始めた、書店員歴20年のベテランだ。熊谷さんが最初に出会った大島さんの作品は、2011年2月に刊行された『ピエタ』。18世紀のヴェネツィアで、作曲家のヴィヴァルディがピエタという慈善院で子どもたちに合唱や合奏を教えていたという事実を核にした物語だ。大島さんは、ヴィヴァルディの「四季」が好きで、これを題材にして書きたいと思っていたとのこと。ただ、編集者に「ヴィヴァルディを書きたい」と言っても、「えっ」で終わって、「書いてくれ」と言われることはなかった。音楽のアンソロジーの依頼を受けたときに、無理だろうと思いつつ「ヴィヴァルディを書きたい」と言ったら、「いいですね」という運びに。短編を書いたらアイデアがあふれとまらなくなり、それがこの長編となった。

『ピエタ』を読んだ熊谷さんは、地元作家である大島さんを応援したいと思い、大島さんの作品コーナーづくりを始めた。



大島さんも常連の七五書店にて 右は熊谷店長

### 名古屋書店員懇親会（NSK）

『ピエタ』が刊行される前年の秋、紀伊國屋書店名古屋空港店の山崎蓮代さん、精文館書店中島新町店の久田かおりさん、七五書店の熊谷さんが集まり、大阪書店員懇親会にならって名古屋書店員懇親会（NSK）を立ち上げた。書店員6名で始まった会は書店、出版社、取次、図書館、古書店、あるいは作家、漫画家、ライターなど、本に関わる仕事を



している(していた)人たちも集まる数十人規模の懇親会(=飲み会)となり、3か月に1度の割合で続いている。

大島さんも2011年から参加している。毎回参加できるわけではないが、10年近くも定期的に何度も会っていると、参加者同士、自然に親しくなるという。

直木賞を受賞したあと、大島さんは酷暑のなか、名古屋市内の書店を回ってサイン本づくりを行った。星野書店近鉄パッセ店でサイン会をし、翌日は紀伊國屋書店名古屋空港店で100冊以上の本にサインをし、丸善セントラルパーク店、丸善名古屋本店、ジュンク堂書店名古屋ロフト店、ジュンク堂書店名古屋栄店、ちくさ正文館、三省堂書店名古屋本店、ジュンク堂書店名古屋店、豊橋の精文館書店本店、豊川堂と10軒の書店を回り、翌日の対談のために東京に向かうという強行軍だったが、サイン入りの本が店頭があれば、大きな読者サービスになる。

NSKではもちろん、直木賞受賞後に大島さんを囲んでお祝いの会をしている。紀伊國屋書店名古屋空港店の山崎さんが探してきた「渦」という日本酒をみんなで差し入れし、神戸に転勤になった書店員が夜行バスで駆けつけてくれるというサプライズもあった。



NSKのメンバーらとお祝い会 2019年8月4日 新瑞橋の居酒屋にて

## 直木賞受賞作ができるまで

作品が読者に渡るまでには、書店員の力が欠かせない。そして、作家が作品を仕上げるまでには編集者の力も必要だ。

『オール讀物』(文藝春秋)の川田未穂さんには、決して作品数の多くない大島さんに少しでも早く自社での次の作品にとりかかってもらいたいという思いがあった。そこで、次は大島さんが好きな歌舞伎を題材にと提案した。大島さん自身は、確かに歌舞伎は好きだけれど、好きと書けるは別だと思っていた。しかし、2015年4月ごろ、歌舞伎の「妹背山婦女庭訓」を見て、これなら何か書けると思ったという。そして、その年の9月に東京国立劇場で初めて人形浄瑠璃を見ることになる。しかも、演目は「妹背山婦女庭訓」の第四段目からだった。お三輪を操っていたのは、桐竹勘十郎さん。もともとお三輪に強く惹かれていた大島さんにも、これぞお三輪と感じられた。一気に人形浄瑠璃の世界に引き込まれていった。

まずは、人形浄瑠璃について調べることから始まり、文

楽の専門家の方々から人形浄瑠璃についてのレクチャーも受けた。どちらも川田さんとの二人三脚だ。二人の素人が、質問攻めにしたため、最初はいやがられたこともあったという。あまりにも初歩的な質問ばかりで、この人たちは10年後くらいに何か書くのかと思われていたらしい。

2017年秋には書き始め、『オール讀物』での連載

は2018年1月号から始まった。大島さんと川田さんのあいだでは、「妹背山婦女庭訓」にまつわる様々な物語をつないでいくような構成をイメージしており、「妹背山団子」と呼んでいた。ところが、第1回を書いたら自然に、近松半二の一生を描いていく流れになっていたという。

いったん書き始めると、大島さん自身にもコントロールが利かなくなり、物語が自然に動き出す。「えっ、そういう小説になるの」と思ったりすることもあるという。連載中も新しい展開になると、調べ物が必要になり編集者との二人三脚は続いた。連載なので、もちろん毎回の原稿量は決まっている。ところが、1回分の枚数ではエピソードが入りきらないこともある。そんなときは前篇、後篇の2回に分けて長めの一話にすることを提案された。

連載は11月号で完結し、2019年3月には、文藝春秋から単行本『渦 妹背山婦女庭訓 魂結び』が刊行された。

実は、5話目の「雪月花」を書き終わると、大島さんは義太夫を習い始めた。ちょっと経験してみたいという軽い気持ちだったが、一度お稽古に行くとおもしろくて夢中になった。いまも月に一度、お稽古に通い、家でも豊竹呂太夫師匠の義太夫をよく聴いているそうだ。



取材でお世話になった人形遣いの吉田勘彌さんと 国立文楽劇場にて



紀伊國屋書店名古屋空港店の山崎さんがつくったPOP



# この人と... ズーム・アップ

「ズーム・アップ」は、現在活躍中の若いアーティストを取り上げる「この人と...」の特別企画です。

日本舞踊五條流 師範

## ご じょう その や お 五條 園八王さん

古典舞踊、古典音楽の世界では、親子二代、三代と芸を継承するケースが多々ある。今回紹介する五條園八王さん（名古屋市出身）も、祖母—母—娘と三代に渡り五條流日本舞踊に情熱を注いできた家系である。昨年に人生の伴侶を得、女性として、舞踊家として一層の飛躍を目指す園八王さんに聞いた。

（聞き手：上野 茂）

### 師匠・園美さんとともに歩んだ30年

—それでは園八王さんの幼少期から、順を追ってうかがいましょう。踊りを始められたのは、いつ頃からだったのですか。

「実はわが家と五條園美先生のお宅とは遠い親類で、祖母（梅園）も母（園智）も、園美先生のお母さまの珠園先生に教えていただいていたんです。私は2歳の頃から、母に手ほどきを受けました。そして4歳の時、園美先生がNHK文化センターの講師を始められ、それ以来お世話になり、30年が経ちました」

—長続きの秘訣はなんですか。

「私は幼い頃から踊りを見るのが大好きでした。踊りだけ



準名取の認可を受け、笑顔の園八王さんと母・園智さん（1994年10月）

でなく、衣装や照明にも興味を持ちました。成長するにつれ、踊りのドラマチックな世界観に憧れるようになり、空想の世界に遊ぶことができるようになりました。常に踊りが生活の中心にありました」



華やかさと凛々しさを併せ持つ舞踊家の五條園八王さん

—それは素敵なことですね。夢見る少女はやがて舞台上で夢を実現させるわけですね。ところで名取名の「園八王」の名には、どんな思いが込められているのでしょうか。

「名取を戴いたのは中学生の頃でした。師匠の「園」と、本名の「八王美」（やおみ）を合わせ園八王とさせていただきました。八王美とは変わった名ですが、縦書きすると線対称になる縁起の良い名だといわれました。なんでも8人の王様に慕われる女性とか（笑）」

### 充実していた日大芸術学部での4年間

—舞踊家を志したのはいつ頃だったのですか。

「高校時代に、舞踊を一生やって行こうと決心し、日本大学芸術学部（演劇学科日舞コース）に進学しました」

—収穫はありましたか。

「はい。2年の時、同級生13人で初めて創作舞踊に取り組みました。古事記を題材にした物語でした。今思い返しても良い作品だったと思います。それ以来、仲間たちと熱心に舞台の夢を語り合いました。初めて共感できる仲間たちと出会えた気がしました」

—創作といえば五條流のお手のもの。園美さんも機



ギタリスト・関将さんとのコラボレーション  
(2018年12月)



「三ツ面子守」を踊る幼年期の園八王さん



母・園智さん(左)と踊る「江島生島」  
(2017年7月)

会あるごとに斬新な創作作品を発表されています。2018年、園美さんは、会派を越えた芸能集団「創の会」を立ち上げ、今年12月には創作舞踊劇『名古屋城天守物語』を公演されます。

「私も出演させていただきます。昨年そのプレ公演が行われました。私は現代舞踊の神原ゆかり先生と、こわい絡みがあるんです(笑)」

——2015年には園美さんが会主を務める「桜美の会」が名古屋市民芸術祭参加公演に選出され、園八王さんと美佳園さんの創作作品が特別賞を受賞されました。

「ありがとうございます。人間の二面性をテーマにした作品でした。まだまだ手探りの状態ですが、優れた創作作品を生み出すためにも、古典の基本を繰り返し勉強したいと思います」

——さて、大学を卒業し帰名した園八王さんは、いよいよ五條流師範職を取得しますが…。

「一般社会を経験しなければ、一人前の社会人になれないと考えて、百貨店内の有名ブランドコーナーで販売員として働き出しました。私なりに頑張ったのですが、踊りとの両立は難しく、4年間で退職しました。OL生活は無駄ではなかったと思いたいです」

### 金城学院大学講師としても奮闘

——ところで日本舞踊は、男踊り(男役)と女踊り(女役)があり、舞踊家は双方をこなさなければなりません。比較的背が高く、凛(りん)とした佇まいの園八王さんには男役がよく似合うと思うのですが。

「私は相手次第で、どちらでも抵抗なく踊り分けられます。例えば男女が絡み合うシーン。自分が男役の時、心から相手がかわいく思えますし、女役の時、相手が頼もしく思えます。ドラマの世界に入り込むのは私、得意かも(笑)」

——2018年からは金城学院大学の講師としての活動が始まりました。

「学生たちに『創作』を教えてほしいと依頼されたのです

が、基本を知らない人たちに、いきなり創作舞踊は難しい。まず浴衣の着方から始め、『さくらさくら』『黒田節』を踊り、その後に創作のノウハウを勉強してもらいました。出来、不出来はともかく、学生たちが日舞を知り、好きになってもらえればうれしいです」

——最後に園八王さんの将来の展望をお聞かせください。

「とにかく、ずっと踊りを続けて行きたい。もっともっと踊りの勉強がしたい。そして近い将来には、私自身のリサイタルができればと…」

——ありがとうございました。園八王さん、そして五條流一門のみなさんの一層のご活躍をお祈りします。



創の会の旗揚げプレ公演で現代舞踊の神原ゆかりさんと絡む迫真の演技

### 12月に「芸能集団 創の会」本公演

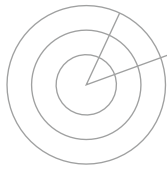
日本舞踊の五條園美さんが発起人となり、2018年「芸能集団 創の会」を結成。本年12月12、13日に芸術創造センターで『名古屋城天守物語』を上演する。

園美さんは「さまざまな舞台芸術家との公演を目指しています。若い舞踊家のためにも、以前行われていた『金城おどり』『中京五流舞踊』に代わる公演を、という思いが発端になりました」と構想を語る。

『名古屋城天守物語』の脚本と演出は伊豫田静弘さんが行う。



# ピックアップ



## 今、若手音楽家が熱い!

昨今、少子化などの影響によりこの地方でも音楽大学へ入学する学生が減少していて、学生を確保するために様々に腐心していると聞く。この問題はどうか日本だけではないようである。先日、NHKのロシア語講座を聴いていたところ、ロシアの音楽学校でも生徒数の減少という問題に直面しているとのことだった。アシュケナーズやロストロポーヴィチなど世界的な音楽家を輩出しているロシアでも同様の問題があるということは、ある意味世界的な傾向といえるのかもしれない。その一方で、コンクール等で優れた成績を収め、活躍の場を広げている演奏家がいることも論を待たないところであろう。

中部地方でも2014年から開催されている刈谷国際音楽コンクールや特定非営利活動法人日本室内楽アカデミーを中心とした実行委員会により15年以上継続してきた名古屋演奏家育成塾の活動などを通じ、才能ある人材が見出されている。その中でも特筆すべきは、まず、第1回の刈谷国際音楽コンクールの弦楽器部門でグランプリを獲得した荒井優利奈が挙げられるだろう。荒井は1994年生まれ。その後、2017年第5回ヤツシャ・ハイフェッツ国際ヴァイオリンコンクール第1位を獲得し、国内外で活躍する道筋をつくった。



バルト・フィルハーモニックオーケストラ(ポーランド)と共演する荒井(2019年3月)

また、2019年8月には第27回名古屋演奏家育成塾の名古屋市文化振興事業団賞受賞記念公演として「松山京加ヴァイオリンリサイタル」が開催された。松山は愛知県立明和高等学校、桐朋学園大学音楽学部を経て、現在、Robert Schumann Hochschule Düsseldorf 修士課程に在学中で、今後の活躍が期待される。

そして、中部地方の若手筆頭格は何とんでもヴァイオリンの辻彩奈であろう。辻は1997年岐阜県生まれ。2016年モントリオール国際音楽コンクール第1位、2017年に岐阜県芸術文化奨励、2018年には第28回出光音楽賞を受賞している。筆者も何度か共演したが、辻の十八番であるシベリウスのヴァイオリン協奏曲は若くして曲を我が物としている自信が窺える。2019-2020シーズンには、スイス・ロマン管弦楽団との共演が予定されている。



パレルモ音楽祭にてヴィヴァルディの「四季」を演奏する辻(2019年8月)

また、2019年9月22日の中日新聞には、ドイツで開かれた第68回ミュンヘン国際音楽コンクールで、名古屋市出身の佐藤晴真がチェロ部門で第1位を獲得したという記事が掲載された。筆者が筆を進めている間にも、優れた若手音楽家が次々に登場しているさまを目の当たりにすることになった! これら若手の活動から今後も目が離せないであろう。非常に楽しみなことである。

(濱津 清仁)



# いとしの サブカル

## 面白い場所を作ろうと 思ったことはなく、変な場所を 作りたかっただけなのです。

ホリエビル オーナー

ほり え ひろあき

**堀江 浩彰**

全国の屋上を旅するフリーペーパー「屋上とそら free」編集長・屋上写真家。広告制作会社でプロデューサーとして勤務しながら、名古屋駅西でホリエビルを運営する「屋上とそら株式会社」を起業し代表取締役を務める。

名古屋駅の西側、駅西と呼ばれ、やがてリニア新幹線がやってくる街に2018年9月にホリエビルをオープンしました。名古屋駅太閤通口から徒歩4分、築約50年のレトロな建物は竣工当時、青果を取り扱う会社の店舗でした。現在それぞれのフロアは、1階にフリーペーパー専門書店「ONLY FREE PAPER NAGOYA」とホットケーキが自慢の「喫茶 River」。2階にレンタルギャラリースペース「Gallery NA2」。3階はデザイン会社を中心にしたシェアオフィスで構成されています。駅西で生まれ育ち、良い意味で雑多なこの街が大好きな私は、小さな危機感を持っていました。名古屋駅のすぐ近くなのに、個人店も多く下町の風情を残したこの場所が、リニア開通に伴う再開発により慣れ親しんだ風景も、行きつけのお店も消えてしまうのではないかと、全国展開する飲食店ばかりになって、ピカピカの商業施設に置き換わってしまうのではないかと考え、ならば先に変な場所を作っておこうと計画し、起業し、銀行融資を受けて完成したのがホリエビルです。

街は好き、建物自体も好きで、フリーペーパーもホットケーキも喫茶店も好きだった私は、不動産賃貸業も書店員も飲食店プロデュースもギャラリー運営もすべて初心者という初めてづくしでした。実はほとんど好きなもので埋め尽くした中に、あまり興味がないものが混ざっています。それはギャラリーという代物。そもそも休日にギャラリーや画廊を巡る趣味もなければ興味もなくアートという言葉も有り難がらない私が、うまくスペースを使いこなせるのだろうかと考え、出した答えは、ものすごくフラットなスペースを作ることでした。交通の利便性が高い駅からすぐ近く、箔もいらす敷居も低く、価格も安い方。最低限の規定さえ満たしていれば、展示内容にも開催内容にも拘らない。ミニ四駆大会でも盆栽の展示でもなんでもOKな空間こそが、私の大好きな雑多な街にぴったりだと信

じています。

取材記事でも書かれたりしてしまい（修正をお願いしますがホリエビルは、とりたてて情報発信もしなければ、カルチャーを牽引もしていません。唯々そこに在り続けることで大勢の作家やアーティストと、お客さまによって彩られ育っていく場所になってくれたらと考えています。私は面白い場所を作ろうと思った事はなく、変な場所を作りたかっただけなのです。Wikipediaでは〈サブカルチャーとは、メインカルチャーの逆の概念であり、社会の支配的な文化の中で異なった行動をし、独自の信条を持つ人々の独特な文化である〉とのこと。ならば私の信条はサブカルという概念に近いのではと思います。ホリエビルから10分ほど離れた場所にミートパイ専門店「MEAT PIES MEET」をプロデュースしました。さらに別のスペースの立ち上げも計画しています。ホリエビルに続く変な場所を、ここでできた友だちや仲間とどんどん増やしていきます。私は駅西を独特な文化・歴史を持つ、とても魅力的な街だと思っているのです。



## ミュージカル 名古屋市文化振興事業団2020年企画公演

## アニーよ銃をとれ

名古屋市文化振興事業団では、毎年、地元で活躍する音楽・演劇・舞踊をはじめとする舞台人の総力を結集し、新しい可能性を追求する企画公演を開催しています。1985年の「三文オペラ」を皮切りに毎年ミュージカルやオペレッタをオーディションで選ばれた地元のキャストと地元スタッフとともに上演してきました。36回目を迎える今回は、代表曲『ショーほど素敵な商売はない』をはじめ珠玉のミュージカルナンバーぞろいのミュージカル・コメディ「アニーよ銃をとれ」を上演します。

ミュージカル「アニーよ銃をとれ」は、アメリカンポップスの帝王アーヴィング・バーリンが作曲を手がけ、実在の女性アニー・オークリーをモチーフにショービジネスの世界での成功とラブロマンスを描いたブロードウェイ屈指の名作です。1999年にはピーター・ストーンによる改訂版が製作され、トニー賞リバイバルミュージカル賞に輝きました。このピーター・ストーン改訂版「アニーよ銃をとれ」の日本初演を、名古屋のスタッフ・キャストの総力を結集して皆様にお贈りします。

## 上演台本・訳詞・演出・振付 / 荒巻 正



東京都出身。1983年劇団四季付属演劇研究所を経て劇団四季入団、1995年退団。1996年以降、劇団スイセイ・ミュージカルに所属し、俳優を務めると共に創作分野に進出する。演出・振付作品には「夢のタイムリミット」「夢があるから!」(平成12年度文化庁移動芸術祭参加作品選定)翻訳上演「FAME」等がある。

2001年よりフリーランスとして活動を始め、「パーフェクトファミリー!」「海底ホスピタル」「True Present」等を演出・振付し、「Sylphy」「WISH - チューリップ物語 -」「風花の葉 - innocent snow -」では、脚本・演出・振付を担当。名古屋市文化振興事業団2016年企画公演ミュージカル「ザ・ミュージックマン」では上演台本・訳詞・演出・振付を手掛けた。2019年には8月のオリジナルミュージカルinToyama「黄昏のラブソディ」(砺波市文化会館)、12月の知多市民ミュージカル「Tsumugū - 木綿愛の夢 -」(知多市勤労文化会館)の脚本・演出を担当。

## 「アニーよ銃をとれ」に寄せて

この度、2016年の「ザ・ミュージックマン」以来のご縁をいただきまして光栄なことにかの「アニーよ銃をとれ」の演出、振付をさせていただきます。ミュージカルというワードが音楽という言葉をその芯に据えてあることの意味を裏付けるようなアーヴィング・バーリンの素晴らしい楽曲に彩られた傑作ですがその中でも作品を象徴するナンバーである「ショーほど素敵な商売はない」はタイトルは知らずとも、誰もが一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。舞台上に魅入られて、舞台上に人生を重ねて歩んでいる演劇人にとってこれほどシンプルに、愛情深く、その信条を言い著した素晴らしいタイトルそれに心魅かれるのは私だけではないはず、まさに舞台人への讃歌に他ならず私たちの気も否応なしに高まろうというもの。今回はブロードウェイで1946年に初演されたオリジナル脚本をおよそ半世紀ぶりにピーター・ストーンによって改訂されたものを上演いたします。数十年の月日を経てもなお愛されつづけているブロードウェイ黄金期の名作。今回もこの作品に集った頼もしいキャスト・スタッフの面々と、終演後のロビーがお客様の笑顔で溢れかえりますように、そのための労苦を惜しまない覚悟です。華やかで、楽しく、愉快的なアメリカン・ミュージカルをどうぞ劇場でお楽しみください。

## 音楽監督・指揮 / 上垣 聡



国立東京藝術大学音楽学部卒業後、ベルリン音楽大学に留学。帰国後各地のオーケストラに客演すると同時にミュージカルにも活動の範囲を広げる。1994年東京国際音楽コンクール(指揮部門)で入選。1990年より2012年まで劇団四季で上演されたほぼすべてのミュージカルの初演・再演にレギュラーコンダクターとして携わる。

四季以外にも「グレート・ギャツビー」、「エリザベート」、「レディ・ベス」、「エドウィン・ドルードの謎」、「シカゴ」、「ドラキュラ - ザ・ミュージカル」、「MITSUKO」、「CHESS」、「フル・モンティ」、「ヤング・フランケンシュタイン」、「ブロードウェイと銃弾」、「シティ・オブ・エンジェルズ」、「サムシング・ロッテン!」、「ANOTHER WORLD」(宝塚)など、多くの舞台の指揮及び音楽監督を務めている。2019年9月にはミュージカル「ペテン師と詐欺師」の指揮・音楽監督を担当。

## ★珠玉のナンバーをどうぞ!★

ミュージカル「アニーよ銃をとれ」オリジナル版の上演は大変古く1946年だそうです。その後1999年にはリニューアルされブロードウェイにて上演されています。名古屋市文化振興事業団では2回目の上演となるようで前回は1989年。ということは、今回は新しい版での上演となるわけです。1989年といえばちょうど僕自身がミュージカルに関わり始めた時代でした。当時はミュージカル界が今のように華やかな時代を迎えるとは想像していませんでした。

あれから30年(!)今回歴史ある名古屋市文化振興事業団の上演に関われることを大変うれしく思います。

さて、ミュージカルといえば「芝居」や「ダンス」そして「歌」と、今ではそれぞれが作品の中心になる場合がありますが、この「アニーよ銃をとれ」の魅力はやはり「歌」でしょう。オープニングの『ショーほど素敵な商売はない』をはじめ、『ムーンシャイン・ララバイ』『素敵な気持ち』『彼の腕の中で』などなど、タイトルは知らなくても誰もがどこかで聞いたことのある珠玉のメロディー。そして大事な的是お客様に心地よく歌詞が伝わること。今回このテーマを特別に意識して美しいメロディーをお届けできるよう出演者共々頑張ります。

そして主役のアニー。日本では江利チエミさんや桜田淳子さんなどが歴代演じられていますが、今回また違ったフレッシュなアニーが誕生するに違いないと確信しています。

実は僕の地元でもある愛知県名古屋。縁もゆかりもある名古屋でこんなにワクワクするミュージカル作りに関われることを大変嬉しく思います。



ミュージカル 名古屋市文化振興事業団2020年企画公演

# アニーよ銃をとれ

ANNE GET YOUR GUN

プロドゥワイの傑作ミュージカル「アニーよ銃をとれ」1999年改訂版 日本初演!

2020年2月  
22 SAT. 23 SUN. 24 MON.

名古屋市青少年文化センター  
アートピアホール

ミュージカル「アニーよ銃をとれ」は、競輪の補助を受けて実施します。

# ANNIE GET YOUR GUN

日 時 / 2月22日(土) 11:00、16:00  
2月23日(日・祝) 11:00、16:00  
2月24日(月・振休) 11:00、16:00

会 場 / 名古屋市青少年文化センター・アートピアホール  
[ナディアパーク11階]

料 金 / S席4,000円、A席3,000円<全指定席>

※事業団友の会会員、障がい者手帳をお持ちの方、大学生以下は2割引  
(事業団チケットガイド及び事業団の管理する文化施設での前売りのみ)

作詞・作曲 / アーヴィング・バーリン  
脚本 / ハーバード&ドロシー・フィールズ  
改訂 / ピーター・ストーン  
上演台本・訳詞・演出・振付 / 荒巻 正  
音楽監督・指揮 / 上垣 聡  
管弦楽 / セントラル愛知交響楽団  
主催 / 公益財団法人名古屋市文化振興事業団

## あらすじ

オハイオ州の田舎で育ったお転婆な娘アニー・オークリーは、あたりでも評判の射撃の名手。日頃から野鳥やウサギといった狩猟の獲物を売って弟や妹たちの生活を支えている。ある時、オハイオ州の町に興行にきていたワイルド・ウェスト・ショー一座のオーナーのバッファロー・ビルが彼女の射撃の腕前を目の当たりにし、ショーに参加しないかと勧誘する。

一方アニーはショーの花形俳優でアニー同様射撃の名手フランク・バトラーにひと目惚れしてしまい、「彼と一緒にいられるなら」と参加を決意する。フランクもまたアニーのことを愛するようになっていく。ところが彼女は新たなヒロインとしてフランクをあっという間に超える人気者となってしまふ。バッファロー・ビルやショーの仲間たちは大喜びだが、看板役者の座を失って面白くないフランクは、ポウニー・ビル率いるライバルの興行一座ファー・イースト・ショーに移ってしまった。

ワイルド・ウェスト・ショーはアニーを中心にヨーロッパ公演で大成功を収めたものの、経済的には大赤字となってしまふ。一方フランクのファー・イースト・ショーもニューヨークのマディソン・スクエアガーデンで興行を行い盛況だったが、やはり経済的に苦しい。バッファローとポウニーは互いに一文無しなことを知らず、相手の一座の金を目当てに合併を目論んだので、アニーとフランクも再会を果たすことになり…

## 出演

アニー・オークリー / 森島美玖 小椋奈々

フランク・バトラー / 荒川裕介 GOH IRIS WATANABE

バッファロー・ビル / 川瀬邦成 鎗木勇樹

ドリー・テイト / 高見侑加 春日井こずえ

シッティング・ブル / 原田邦英

チャーリー・ダベンポート / 市川太一

ウィニー・テイト / 永田 萌 山田みのり

トミー・キーラ / 朝倉天馬 平野 萩

ポウニー・ビル / 楠木 稔

フォスター・ウィルソン / 山本 仁

ジェシー・オークリー / 高桑 優 丹羽凜花

ネリー・オークリー / 金光さくら 山西奏多

リトル・ジェイク / 矢田哲朗 青山璋良

アンサンブル / 上尾歌穂、市岡優希、伊藤千紗、井村泰成、大本観月、加藤謙太郎、川 大智

川合慶典、京夏、高橋奈々、滝下純平、ちあき、服部真和、平光礼奈、福井あゆみ、松村令奈

山内庸平、山田紘子、渡辺朱音、渡邊ひめこ

●は2月22日(土) 11:00・23日(日・祝) 16:00・24日(月・振休) 11:00

◎は2月22日(土) 16:00・23日(日・祝) 11:00・24日(月・振休) 16:00

※無印は全日程に出演。

## ～ 関連事業のご案内 ～

### ◇ミュージカル「アニーよ銃をとれ」稽古場見学会

いよいよ稽古も大詰めとなる2020年2月、本番に向け、スタッフ・キャストが一丸となって、日夜奮戦中！寒さにも負けず、稽古場では熱気が高まっています。普段見ることのできない、ミュージカルの稽古場を覗いてみませんか？

日 時 : 2月2日(日) 14:00~15:00  
会 場 : 名古屋市演劇練習館(アクテノン)・5階リハーサル室  
定 員 : 先着30名(1グループ5名まで)  
料 金 : 無料  
申込方法 : 友の会会員先行受付 1月 8日(水)9:00~  
一般受付 1月10日(金)9:00~  
申 込 先 : 名古屋市文化振興事業団チケットガイド  
TEL 052-249-9387(平日9:00~17:00)



